

兵庫県立西宮病院

地域医療連携室便り

2007年3月 第4号

看護部長 森 えみ

春の訪れを告げる梅だよりが届く頃となりました。平素は、当院の運営につきましてご支援ご協力をいただきありがとうございます。

病院完結型医療から地域完結型医療へ移行し、医療機能の分化・連携による切れ目のない医療の提供が重要となります。当院におきましても、ワーキンググループを立ち上げ「顔と顔が見える地域医療連携」を目指して積極的に活動してきました。今回は、後方連携の取り組みについて紹介をさせていただきます。当院での急性期の治療を終えた患者さまを引き受けていただく医療機関や施設との連携強化のため、昨年7月より、乾地域医療連携部長を中心に医師、医療ソーシャルワーカー、看護次長・看護長が地域の病院を訪問し「顔と顔が見える関係作り」を積極的に進めてきました。訪問の結果、お互いの病院の特徴や詳しい状況、受け入れ可能な疾患などが理解でき、患者さまや家族に自信と責任を持って転院を勧めることができるようになり、これまで時間を要していた退院調整がスムーズにいくようになりました。また、連携の成果として、転院調整中に転院先の院長、看護部長、医療ソーシャルワーカーが当院にお見えになり患者さまと面談されました。患者さまは「転院先の病院のことが直接聞けて安心しました」と喜ばれて転院をされました。患者さまが納得されて転院し療養を継続するには、先ず地域医療チーム間の関係性を築くことの大切さを実感しました。

また、2月からは地域で在宅医療を行っている診療所を乾地域医療連携部長、医療ソーシャルワーカー、看護長が訪問していますのでよろしくお願いたします。

現在、当院では在宅末期医療に取り組んでおられる地域の先生方のご支援を得ながら、終末期の患者さまが、「住み慣れた自宅で最後の瞬間まで自分らしい生活を送りたい」という選択ができるよう“あなたの家にかえろう”に取り組んでいます。看護の役割は、患者さまが自分の病気や障害を受け止めながら生活していくことを自己決定できるよう関わること、そして患者さまが望む療養生活が可能となるよう医療・継続看護の橋渡しと調整をすることが大切であると認識し頑張っています。

4月になれば、新しい地域医療連携室がオープンする予定です。期待に胸を膨らませながら、ハード面の充実だけでなく、急性期の治療を終えた患者さまが地域の医療機関や施設、在宅で安心してその人らしい療養ができるよう退院支援に努めます。課題も多くまだまだ充分とはいえませんが、地域の先生方の忌憚のないご意見・評価をいただきながら、当院が地域に根ざした信頼される病院として良質な医療・看護が提供できるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

医療相談室

医療ソーシャルワーカーのかかわりについて

医療ソーシャルワーカー 徳山 磨貴

当院には、医療相談室に現在2名の医療ソーシャルワーカー（以下MSW）が配置されております。

MSWは地域医療連携の中でも主として、当院から退院・転院される患者さまやご家族の支援、すなわち「後方支援」に携わっております。

月ごとのケース数は、延べ件数で1300～1500件、取り扱い実人数で、60～80件ほどを担当致しております。MSWの適切な配置基準としては、100床に1名の割合ですので、400床の当院では、やや業務量がオーバーしており、一つ一つのケースにじっくりと丁寧に関わらせて頂くことができず、地域の関係医療機関へはご迷惑をおかけしていることも多いかと反省いたしております。

業務の中身は、退院や転院支援が約8割を占めておりますが、療養中の心理・社会面の支援、経済面の支援、社会保障制度の利用支援などを実施いたしております。特に、特徴的なケースとしては、腎移植患者さまへの支援（ドナー検査入院の際にMSWもルーティンで面接をしています）、小児科患者さまへの家庭支援（子どもセンターとの連携など）、また最近ではがん末期患者さまの在宅支援に力を入れております。

最近の支援の傾向と致しましては、以前に比べ在宅調整の支援に関わらせて頂く機会が多くなったことです。これまでは、がん末期患者さまや医療依存度が高いケースにおいては、当院から、療養型やホスピス病棟を有する病院をご紹介します、「転院」という形をとるケースが大半でした。そのため院内全体で、在宅医療について学習する機会を持つなどして、自宅で受けられるケアの内容について、まずは私たちの認識を変えていくところから始めました。その結果、今後の療養についての選択を悩まれている患者さま・ご家族に対して、スタッフから、「自宅でも往診や訪問看護が受けられ、過ごすことができますよ」などの助言ができるようになり、患者さま・ご家族に提供できる選択肢が増えて参りました。

また、当院では昨年に緩和ケアチームを立ち上げました。当院のように、緩和ケア病床を持たずに、活動するチームとしては、患者さまの症状コントロールがつけば、最終ゴールの退院に向けて、チーム全体で患者さまを支援することが必要となって参ります。MSWとしては、当院にて治療を一段落あるいは終了された患者さまがその人らしく、その方の過ごしたい場所で、よりよく過ごされるためには、どのような療養の選択肢があるのか、どう工夫すれば実現が可能なのかを、地域の医療機関の皆様方にもご協力を頂きながら検討していきたいと思っております。

MSWとしての基本的な姿勢、「病気や障害を持たれた方が、地域でその人らしく生活して行くにはどうすればいいか？」を忘れることなく、患者さま・ご家族と共に考え、そしてわれわれスタッフも成長していけるよう努力して参りますので、今後ともご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

<部門紹介>

第4回目は、小児科からの紹介です。

当院小児科の患者数は、昨年度の統計によると、外来の1日平均患者数は61.1人、入院の1日平均患者数は17.8人で、平均在院日数は一般小児科5.0日、未熟児センター10.1日となっています。(稼動病床数は一般小児12床、未熟児14床です。)

最近の特徴としては、一般小児では、感染症のほかにアレルギー、腎、肝、神経、心臓などの疾患が増加しております。未熟児センターでは、低出生体重児、呼吸器疾患(RDS・MAS等)、高ビリルビン血症、心疾患の症例が主となっており、年間の症例数でみると1500g未満の極低出生体重児10例、2500g未満の低出生体重児80例、人工呼吸管理児15例となっています。

スタッフは小児科部長 安部治郎(日本小児科学会認定専門医、指導医)(日本小児神経学会認定専門医)、小児科部長 山本勝輔(日本小児科学会認定専門医)(日本腎臓学会認定専門医)、小児科医長 村井竜太郎、小児科専攻医 笹野衣理、小児科専攻医 松本空の5名です。安部の担当は神経・肝臓・予防接種・母子感染症の管理です。山本は腎臓・喘息・糖尿病です。村井は新生児・心臓・感染症管理です。笹野は新生児・川崎病です。松本は4月に着任し、主に新生児を行っています。また木曜日と土曜日の18時から翌日7時まで夜間救急診療を西宮市・芦屋市・宝塚市の小児救急二次病院輪番として参加しています。2006年5月に超音波診断装置が更新され、心臓や新生児の頭部や腎臓の画像やドップラー像を毎日速やかに診断しています。日本小児科学会兵庫地方会や西宮市医師会小児科医会講演会・症例検討会などに積極的に参加し発表しています。また月曜日午後に永井臨床心理士が非常勤ですが、発達診断や心身症のカウンセリングを行っています。一般外来は午前中のみですが、可能な限り午後も救急症例に対応していますので、ご紹介いただければ幸いです。

文責：小児科部長 安部治郎

公開シンポジウム開催のお知らせ

地域医療連携室では在宅医療について公開シンポジウムの開催を予定しています

開催日：平成19年 6月14日(木)

場所： 県立西宮病院

テーマ： 『 地域医療における在宅医療の重要性 』

- * シンポジウム座長 在宅開業医 つちやま内科クリニック 土山雅人先生
看護部次長(当院)
- * シンポジスト 在宅開業医 さくらいクリニック 桜井隆先生
訪問看護ステーション 看護師
医療ソーシャルワーカー(当院)
看護長(当院)

どうぞ 皆様ご参加ください



お知らせ

循環器科開設にあたって

診療部 千森 義浩

この4月より内科循環器部門が「循環器科」として標榜変更することになりました。

当科では、高血圧や高脂血症を中心とした生活習慣病をはじめ、虚血性心疾患、弁膜症、不整脈などの治療を行っています。また、昨秋より専門医師を増員し、低線量・高画質のフラットディテクタを採用した連続血管撮影装置にて心臓カテーテル検査を開始いたしました。さらに4月よりは冠動脈インターベンション治療の開始を予定しており、虚血性心疾患の治療の充実を図ります。

さらに不整脈に対して各種心電図検査、心臓電気生理検査などにて診断を行い、治療につなげています。また、徐脈性不整脈で必要な場合は一時的あるいは永久ペースメーカー治療（手術）も行っております。なお当院は総合病院である特色を生かし、外科系・麻酔科の先生方との密な連携により、心疾患合併患者さまにもなるべく安全に手術を受けていただけるよう努めております。

当院は西宮市・芦屋市のみならず神戸市東部を主な医療圏としており、公立病院としての責務を感じるとともに、今後もさらにお役に立てるよう精進していく所存でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

<当科で受けることのできる検査>

心臓（経胸壁・経食道）超音波検査、血管（頸動脈・下肢静脈）超音波検査、マスター負荷心電図、トレッドミル、ホルター心電図、心臓核医学検査（心筋シンチ）、心臓電気生理検査、心臓ペースメーカー、心臓カテーテル検査・治療

<2006年実績>心臓超音波検査 2,451件
経静脈的ペースメーカー植え込み手術（電池交換を含む） 24件

<スタッフ> 千森義浩（内科医長）
松岡哲郎（内科医長）
篠原主一（内科医長）

なお、当院は日本循環器学会専門医研修施設に認定されております。

<編集後記>

今年は異常といえるほどの暖冬でした。地球温暖化の影響だといわれています。温暖化がもたらす悪影響が論じられ温暖化防止が叫ばれて久しいところですが、私たちひとりひとりが、意識して身近なところから環境を守っていくようにしたいものです。

さて、我が「連携便り」第4号はいかがでしたか。これからもっと誌面を充実していくために、ご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

（医事課 前川）

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 西宮市六湛寺町13番9号

電話 (0798) 34-5151 (代表) FAX (0798) 23-4594

地域連携室直通 FAX (0798) 34-4436

地域連携室 E-mail chiki-kn@hp.pref.hyogo.jp